

ISSN 0912-778X

穂別町立博物館報

第9号

(平成3年度)

穂別町立博物館

目 次

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|-------|-------|----|
| 沿 | | | | 革 | | | 1 |
| 施 | | | | 要 | | | 3 |
| 展 | | | | 動 | | | 4 |
| 収 | | | | 要 | | | 5 |
| 資 | | | | 動 | | | 6 |
| 調 | | | | 動 | | | 7 |
| 普 | | | | 動 | | | 8 |
| 運 | | | | 營 | | | 10 |
| | 設 | の | 概 | | | | |
| | 示 | | 活 | | | | |
| | 蔵 | 資 | 料 | | | | |
| | 査 | 集 | 保 | | | | |
| | 及 | 研 | 存 | | | | |
| | | 教 | 活 | | | | |
| | | | 活 | | | | |

● 沿革

昭和50年 6月

穂別町字長和サヌシユペ川の枝沢において、荒木新太郎氏（穂別町：板金業）が化石骨のはいったノジュール（石灰質団球）を発見、一部採集。

昭和51年 9月

佐藤昌人（苫小牧青少年センター）指導員・佐藤隆久（穂別町立仁和小学校）教諭が、荒木氏の発見した化石を撮影。長谷川善和（国立科学博物館）主任研究員に鑑定を依頼。

昭和52年 2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が北海道新聞で報道。白亜紀後期の海棲爬虫類の鱗状になった前・後肢いずれかの骨格の一部と確認。

昭和52年 7月5～8日

穂別町首長竜化石発掘調査団、結成。発掘調査。

昭和53年 5月

長頸竜化石クリーニング作業開始。
（於：旧・穂別町立さくら保育所）

昭和53年11月

穂別町立郷土資料館、開館。
（旧・さくら保育所施設利用）

昭和54年 3月 5日

長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。

『穂別町郷土資料館建設計画検討委員会』

始動

第1回（昭和55年10月16日）

第2回（昭和55年11月26日）

建設の目的、設定。

〈建設の目的〉『本町は、クビナガリュウをはじめデスマスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開基70年（町制施行20年）を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

第3回（昭和55年12月15日）

第4回（昭和55年12月22日）

第5回（昭和56年 1月27日）

展示シナリオ提示：

第6回（昭和56年 3月13日）

施設平面図提示。

名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更。

第7回（昭和56年 5月22日）

第8回（昭和56年 6月11日）

展示班・資料収集班・図書班始動。

特別協力員選出。

〈展示班の活動〉

展示シナリオの分担を決定(S. 56/6/24)

視察研修（道開拓記念館）(S. 56/7/11)

展示班会議(S. 57/3/5)

〈資料収集班の活動〉

資料収集方針および収集計画決定
(S. 57/3/11)

第9回（昭和56年10月29日）

第10回（昭和57年 2月10日）

展示シナリオ最終決定。

昭和56年 7月～12月
博物館施設建設工事行なわれる。

昭和56年 9月 1日
学芸員：鈴木 茂（北海道大学大学院）
採用

昭和57年 1月16日
長頸竜復元作業開始。

昭和57年 3月～6月
博物館展示工事行なわれる。

昭和57年 7月20日
博物館開館。一般公開開始。

昭和57年 8月
第1回博物館協議会開催

昭和57年12月19日
長頸竜復元骨格展示公開

昭和58年 6月
常設展、一部展示更新。

昭和59年 2月
村上 隆 著、「よみがえるクビナガ
リュウ」発刊。

平成2年6月27日
博物館協議会にて、平成3・4年度展示
更新基本方針説明

〈展示更新の基本的考え方〉

『穂別地域で発見される脊椎動物を始め
とするさまざまな化石群が、学術的に貴重
なものであることは主張するまでもない。
さらに、化石を古生物としてみた場合、学

術的な意味を離れても、一般の観覧者にさ
まざまな示唆を与えてくれるものなのであ
る。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる
「変・古・珍」として扱わず、「我々人間
につながる生き物」として見ることを展示
の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこ
だわり、模型は「生きていたときの姿」に
こだわる。そして、現在の種々の生き物達
の関係と同じく、過去の「古」生物達にも
同様の生態系としての関連があったこと、
さらに、それらは数十億年も昔から現在に
かけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1
頁であることを理解させる博物館とする。』

常設展示再開までの期間が短いため委員
会形式はとらず、学芸員が設計にあたり博
物館協議会において報告検討する事が確認
された。

平成3年 2月 1日
展示更新のため、休館に入る。

【特別展示の記録】

第1回：昭和57年12月19日
「よみがえるクビナガリュウ」

第2回：昭和60年11月 1日
「北海道一億年」

第3回：昭和61年10月21日
「穂別の自然」

第4回：昭和62年 7月28日
「アンモナイトの系図」

第5回：昭和63年 8月23日
「穂別のカメラ化石」

第6回：平成元年 7月18日
「穂別のむかし」

第7回：平成2年 8月18日
「戦争と穂別」

●施設の概要

位 置 北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

建築面積 1,232㎡

(内 訳)

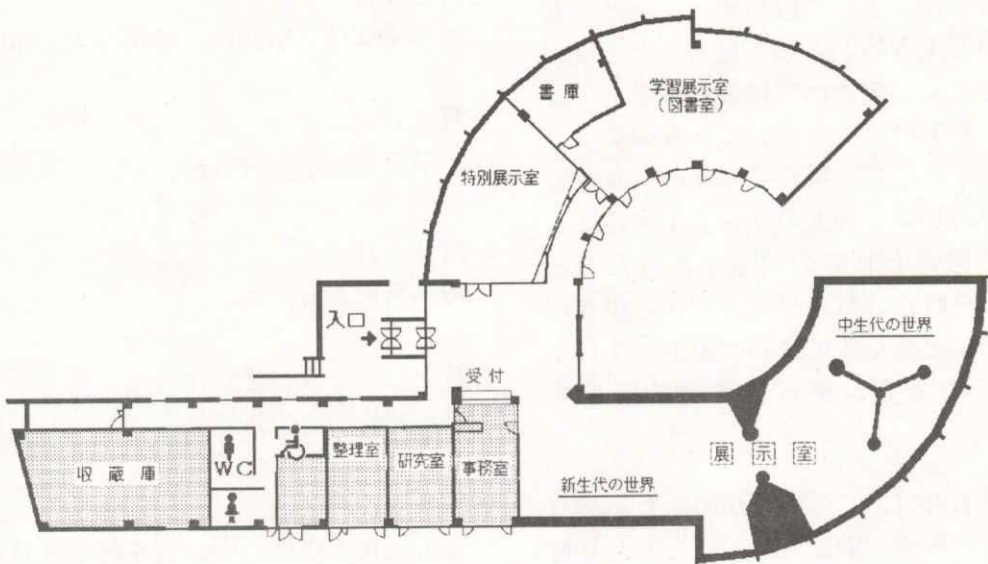
| | | | |
|-------|--------------|-------|--------------|
| 常設展示室 |372.88㎡ | 事務室 |40.50㎡ |
| 第2展示室 |99.37㎡ | 研究室 |31.50㎡ |
| 第3展示室 |32.40㎡ | 整理室 |29.92㎡ |
| 特別展示室 |99.08㎡ | 学習展示室 |184.75㎡ |
| 収蔵庫 |86.56㎡ | 書庫 |35.05㎡ |
| | | 共用部門 |219.76㎡ |

建築構造 鉄筋コンクリート平屋建（本館）

工 期 昭和56年度～57年度

総事業費 3億7,276万5,000円

●施設平面図



●展示活動

I 特別展

平成3・4年度展示更新準備のため、平成3年度の特別展示は中止した。

II 常設展示更新計画

平成2年 6月27日

博物館協議会にて、平成3・4年度展示更新基本方針説明

「展示更新の基本的考え方」

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。』

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

常設展示再開までの期間が短いため委員会形式はとらず、学芸員が設計にあたり博物館協議会において報告検討する事が確認された。

9月28日

展示業者（丹青社）と展示計画検討開始。

平成2年11月17日、12月6日、3年1月22日、4月13日、5月23日、6月14日、7月25日、8月22日、9月10日、10月30日、11月26日、12月21日、4年1月18日、1月25日：展示更新計画検討会議。

平成4年2月1日

展示更新の為、休館に入る。展示物撤去作業開始。

2月6日、2月15日

展示更新工事検討会議。

2月20日

展示室解体工事開始。暖房増設工事開始。

2月26日

展示更新工事検討会議。

2月28日

博物館協議会開催。

3月12、19、25日

展示更新検討会議。

3月31日現在

展示更新工事進行中。（4月29日再開予定）

●収蔵資料概要

人文系資料

| 収蔵場所 | 生活 | 産業 | その他 | 計 |
|-------|-----|-------|-------|-------|
| 常設展示室 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 第二展示室 | 665 | 1,030 | 26 | 1,721 |
| 第三展示室 | 96 | 32 | 21 | 149 |
| 収蔵庫 | 107 | 252 | 1,419 | 1,778 |
| 貸出中 | 0 | 5 | 1 | 6 |
| 計 | 868 | 1,319 | 1,467 | 3,654 |

自然系資料

| 収蔵場所 | 動物 | 植物 | その他 | 計 |
|-------|----|----|-----|----|
| 常設展示室 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 第二展示室 | 7 | 0 | 0 | 7 |
| 収蔵庫 | 46 | 23 | 0 | 69 |
| 計 | 54 | 23 | 0 | 77 |

自然史系資料

| 収蔵場所 | 動物 | 植物 | その他 | 計 |
|-------|-----|----|-----|-----|
| 常設展示室 | 176 | 2 | 19 | 197 |
| 整理室 | 33 | 0 | 0 | 33 |
| 貸出中 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 収蔵庫 | 648 | 2 | 5 | 655 |
| 計 | 859 | 4 | 24 | 887 |

(1992.03.31.現在；未登録資料は除く)

●資料収集保存活動

平成3年4月1日から平成4年3月31日までに寄贈、採集、寄託された資料を順に記した。

(敬称略)

I 寄・贈

【人文系資料】 1件 1点
石 器 (1点) 藤岡 勝美

【自然系資料】 2件 3点
野鳥(アカゲラ) (1点) 河原 清
" (シジュウカラ) (1点) 河原 清
" (不明) (1点) 浅野 初子

【自然史系資料】 7件 25点
アンモナイトノジュール (1点) 佐々木 誠
アンモナイトほか (5点) 松本 達郎
アンモナイトほか (3点) 河崎 元也
アンモナイトほか (7点) 川下由太郎

アンモナイトほか (3点) 山越 組
クローム鉄鉱石 (1点) 加藤 敏広
黒曜石 (5点) 神保 幸則

II 採 集

【自然史系資料】

11月29日

岩石標本 三石町 アクチノライト

III 寄 託

平成3年3月31日現在で寄託中の資料

【自然史系資料】

(敬称略)

阿部 利春

アンモナイト(1点)

石崎 正行

アンモナイト(2点)

【人文系資料】

(敬称略)

佐久間正雄

郷土史資料(2点)

●調査研究活動

I 脊椎動物化石の研究

【デスモスチルス】

木村方一（道教大）教授に研究委託

公表論文：

[1984]穂町博研報[1]、11-23.

[1984]地団研専報[28]、51-61.（松井・山口氏と共著）

[1985]穂町博研報[2]、51-62.

赤松守雄（道開記念館）学芸員に研究委託

公表論文：

[1984]地団研専報[28]、63-68.

【クジラ】

木村方一（道教大）教授に研究委託。

【ウミガメ】

平山 廉（帝京技科大学）講師に研究委託

公表論文：

[1984]穂町博研報[1]、17-30.（鈴木 茂氏と共著）

[1992]穂町博研報[8]、17-57.

[1992]日本地質学会第99年学術大会
投稿準備中

【長頸竜】

仲谷英夫（香川大学）助手に研究委託。

公表論文：

[1981]日本地質学会第88年学術大会

[1982]日本地質学会第89年学術大会

[1982]動物と自然、12:11-16.

[1984]穂町博研報[1]、37-40.

[1985]穂町博研報[2]、43-49.

[1989]穂町博研報[5]、43-48.

[1989]日本古生物学会報告・紀事[154]、
96-116.

【モササウルス】

鈴木 茂（元穂町博学芸員）氏が研究

公表論文：

[1985]穂町博研報[2]、31-42

[1985]地団研専報[30]、45-66.

地徳 力、学芸員が別資料の研究継続

公表論文：

[1987]日本地質学会第94年学術大会

[1990]日本地質学会第97年学術大会

[1990]日本地質学会、道支部報、[1]、
45-46.

[1991]穂町博研報[7]、9-14.（紀藤典夫
氏と共著）

【サメ】

久家直之、京都大学大学院院生に研究委託

公表論文：

[1984]穂町博研報[1]、33-36

II 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第8号、10頁：平成3年7月31日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第8号、57頁：平成4年3月30日発行

著者及び論文題名

松本達郎・利光誠一：(1-16, p1. I-III.)

北海道穂別産の示準アンモナイト
*Pachydiscus kobayashii*について

平山 廉：(17-57.)

ウミガメ上科における上腕骨の形態
的多様性

●普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

実行事業無し

【化石クリーニング教室】

学芸補助員職未補充のため定期講座は閉講中。学校などの団体に要望があれば随時開講とした。

II ホッピーだより (博物館広報)

【主な内容】

87号(3年 4月)

平成2:1990年度博物館収集資料について

88号(3年 5月)

穂別の地質を学ぶために=その10=
穂別町地質構造発達史④

89号(3年 6月)

緊急特集『雲仙岳噴火!!』

90号(3年 7月)

穂別の地質を学ぶために=その11=
穂別町地質構造発達史⑤

91号(3年 8月)

穂別の地質を学ぶために=その12=
穂別町地質構造発達史⑥

62号(3年 9月)

穂別の地質を学ぶために=その13=
穂別町地質構造発達史⑦

93号(3年10月)

ホッピー君の『地球体験館』見学記

94号(3年11月)

こんなふうになる!?

「常設展・展示替え」

95号(3年12月)

こんなふうになる!?

「白亜紀の世界」

96号(3年 1月)

『サル・申・猿の話』

97号以降休刊中

III その他

【穂別町教職員新任者研修】

平成3年5月16日:

穂別町新任教職員(12名)が館内研修

【穂別町教育研究会理科サークル研修】

平成3年6月4日:

穂別町教育研究会理科サークル(7名)が館内研修

【自然体験王国北海道(穂別コース)】

平成3年7月29~30日:

自然体験王国北海道(穂別コース)の化石採集・クリーニングを指導

【札幌清田バスケット少年団化石学習】

平成3年8月3日:

札幌清田バスケット少年団(36名)の化石学習を指導

【札幌学院大学社会教育実習】

平成3年9月13日:

札幌学院大学社会教育実習(博物館コース)を指導

【町内教育・福祉団体の利用】

6月15日:

穂別中学校(14名)

7月16日:

穂別ことぶき学級学習会(28名)

【町外教育・福祉団体の利用】

6月18日:

静内町立桜丘小学校(75名)

6月27日:

札幌市立真駒内緑小学校(156名)

6月27日:

日高町立千栄小学校(14名)

6月30日:

えりも町立目黒中学校(27名)

7月3日:

静内町立静内小学校(80名)

7月9日:

鶴川町大東文化鶴川幼稚園(55名)

7月10日:

苫小牧市緑星の里(9名)

7月18日:

東北大学理学部地質古生物学教室(11名)

7月19日:

由仁町立三川中学校(51名)

7月22日:

苫小牧市立啓明中学校(364名)

8月6日:

苫小牧市教育研究会(10名)

8月7日:

東海大学(11名)

8月7日:

恵庭市立恵み野中学校(52名)

8月13日:

帝京技術科学大学地学(5名)

8月22日:

追分高等学校(1名)

8月29日:

札幌市立手稲西小学校(98名)

9月8日:

厚真町立厚真中学校(10名)

10月2日:

高知大学理学部地質学教室(4名)

10月3日:

国際水辺環境フォーラム(21名)

10月9日:

管内市町保健衛生業務研究会(18名)

10月15日

厚真町立富野小学校(36名)

10月22日:

門別町立門別中学校(51名)

11月10日:

白老町「親子体験学習教室」(12名)

12月1日:

由仁町立川端小学校PTA(25名)

● 運 営

I おもなできごと

【平成3年度】

4月1日

佐藤稔館長就任・佐藤貞子庶務係配置

4月3～7日

学芸員、日本地質学会総会（松山）に参加

4月26日

平山廉（帝京技術科学大学）講師来館

4月28、29日

入館者10万人突破記念事業

5月4～6日

松本達郎（九州大学）名誉教授、利光誠一（通産省地質調査所）博士来館

5月10日

俱知安町教育長ほか（10名）視察

7月4日

浦幌町議会議員（8名）視察

7月6～14日

松本達郎（九州大学）名誉教授来館

7月6～11日

蟹江康光（横須賀市博物館）学芸員来館

7月9日

朝日町議会議員（16名）視察

7月12日

苫小牧市教育委員会社会教育部長来館

7月17日

津別町議会議員（11名）視察

7月17日

本別町議会議員（6名）視察

7月24日

京極町議会議員（14名）視察

7月25日

蘭越町教育委員会（26名）視察

7月30日

訓子府町議会議員（19名）視察

7月31日

長谷川卓（東北大学地質古生物学）氏来館

8月15～17日

平山廉（帝京技術科学大学）講師来館

8月20日

仁木町社会教育委員（4名）視察

8月27日

遠軽町議会議員（11名）視察

9月4日

栗沢町社会教育委員会（10名）視察

9月26日

松本達郎（九州大学）名誉教授来館

9月27日

ニセコ町議会議員（7名）視察

10月3日

当麻町文化財審議会委員（5名）視察

10月5日

地球体験館開館

10月9日

音更町議会議員（5名）視察

10月13日

平取町教育委員会（19名）視察

10月18日

グスロフ（ソビエト連邦）博士来館

10月19日

北海道教育大学札幌分校地学教室（21名）来館

10月22日

島牧村社会教育委員（7名）視察

10月27日

新冠町郷土文化研究会（13名）視察

10月29日

博物館協議会開催

10月30日

甲藤次郎（高知大学）名誉教授来館

- 1 1月1日
一島啓人（北海道教育大学）氏来館
- 1 1月8日
ニセコ町社会教育委員（7名）視察
- 1 1月8日
羽幌町行政視察団（8名）視察
- 1 1月8日
胆振教育局企画管理課（28名）視察
- 1 1月14日
歌登町議会議員（16名）視察
- 1 1月14日
根室市議会議員（7名）視察
- 1 1月21日
網走市立郷土博物館に化石貸出し
- 1 1月29日
真狩村議会議員（14名）視察
- 1 2月20日
ポーチ石畳補修工事検定
- 1 2月30日～1月6日
年末年始休館
- 2月1日～
展示更新のため休館（4月28日まで）
- 2月1～7日
展示物撤去作業
- 2月14日～
映像機器撤去作業
- 2月20日～
展示室解体作業・電気配線工事・暖房増設工事
- 3月3日～25日
展示室造作工事

職員名簿（平成4年3月31日現在）

| | |
|-----|-------|
| 館長 | 佐藤 稔 |
| 庶務係 | 佐藤 貞子 |
| 学芸員 | 地徳 力 |

博物館協議会委員
（平成3年3月31日現在）

| | |
|-----|-------|
| 会長 | 久保田瑞真 |
| 副会長 | 荒木新太郎 |
| 委員 | 佐藤 嗣夫 |
| 委員 | 村上 隆 |
| 委員 | 小石川武美 |
| 委員 | 津野 昇 |
| 委員 | 大久保文夫 |

（平成4年7月31日まで）

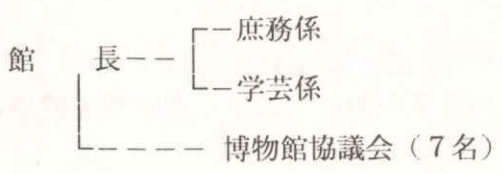
III 利用状況

【常設展示観覧者】
平成3年4月～4年3月

| 月 | 一般 | 学生 | 計 | 開館日 |
|----|--------|-------|--------|-----|
| 4 | 490 | 192 | 682 | 25 |
| 5 | 1,591 | 543 | 2,134 | 21 |
| 6 | 630 | 333 | 963 | 26 |
| 7 | 956 | 829 | 1,785 | 25 |
| 8 | 1,549 | 1,066 | 2,615 | 27 |
| 9 | 735 | 181 | 916 | 22 |
| 10 | 4,555 | 1,275 | 5,830 | 24 |
| 11 | 1,664 | 556 | 2,220 | 23 |
| 12 | 403 | 98 | 501 | 24 |
| 1 | 255 | 115 | 370 | 21 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 計 | 12,828 | 5,188 | 18,016 | 238 |

【2・3月は展示更新のため休館中】

II 組織



V. 平成3年度予算

| 費目 | 予算 (単位千円) |
|------------|--------------|
| 報酬 | 116 |
| 共済費 | 116 |
| 賃金 | 3,042 |
| 報償費 | 421 |
| 旅費 | 514 |
| 需用費 | 5,640 |
| 役務費 | 444 |
| 委託料 | 2,571 |
| 使用料及び貸借料 | 572 |
| 工事請負費 | 89,221 |
| 原材料費 | 150 |
| 備品購入費 | 1,676 |
| 負担金補助及び交付金 | 160 |
| 博物館費合計 | 104,643 |

| 需用費細目 | 5,640 (千円) |
|-------|------------|
| 消耗品費 | 729 |
| 燃料費 | 1,265 |
| 食糧費 | 96 |
| 印刷製本費 | 987 |
| 光熱水費 | 2,300 |
| 修繕費 | 200 |

| 役務費細目 | 444 (千円) |
|-------|----------|
| 通信運搬費 | 309 |
| 手数料 | 70 |
| 保険料 | 65 |

VI 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・
年末年始（12月30日～1月6日）

【観覧料】

| | 一般 | 小中学校 ・高校生 |
|---------------|------|--------------|
| 個人 | 200円 | 50円 |
| 団体 (10人以上) | 150円 | 30円 |

（注：平成4年1月31日まで。平成4年4月29日から以下に改定）

| | 一般 | 小中学校 ・高校生 |
|---------------|------|--------------|
| 個人 | 300円 | 100円 |
| 団体 (10人以上) | 200円 | 50円 |

【減免】

「（穂別町立）博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない（穂別町立博物館設置条例、第6条）」が「（穂別町）教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる（同条例、第7号）」。
減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条：
条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

(教育目的)

1)穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合

(研究目的)

2)国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

3)老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容

者の養護計画の実施のため入館する場合

4)精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5)前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館報 第9号 (平成3年度)

発行 1992年7月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02 北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL(01454) 5-3141

印刷 さんようプリント

苫小牧市柏木町1丁目16-9

